
三田市

介護保険サービス提供事業者に関するアンケート調査

報告書

令和5年8月

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 留意点	1
2. 人材について	2
(1) 従業員の状況	2
(2) 人材確保・育成	5
3. 運営状況について	10
(1) 運営上の課題	10
(2) 地域包括支援センター（・高齢者支援センター）への相談	12
(3) サービスの質の向上	15
(4) 市への要望	16
4. 提供しているサービス、今後の提供意向について	17
(1) 今後のサービス提供意向	17
5. サービス、社会資源について	20
(1) 不足しているサービス	20
(2) 団体や組織との関わり	33
(3) 充実すべき取り組み	37
6. 認知症、医療・介護連携について	39
(1) 認知症への対応	39
(2) 医療との連携	41

1. 調査概要

(1) 調査目的

この調査は、令和6年度から令和8年度までの「三田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（いきいき安心プラン21）」の策定を行うにあたって、介護保険サービス提供事業者の現状や今後の展望等について把握するために実施しました。

(2) 調査の実施について

以下の調査を実施しました。

調査種類	介護保険サービス提供事業者に関するアンケート調査
対象者	市内の介護保険サービス提供事業者
実施期間	令和5年5月12日（金）～5月26日（金）
実施方法	郵送配布、郵送回収またはWEB回収
回収状況	配布数：142件 有効回収数：101件（郵送：76件、WEB：25件） 有効回答率：71.1%

(3) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. 「N」は「Number」の略で、比率算出の母数であり、悉皆調査であることを表しています。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
3. 複数回答の場合、図中にMA（Multiple Answer）、3LA（3 Limited Answer）と記載しています。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
4. 本報告書で使用しているサービス種別は以下の通りです。

サービス種別		該当サービス
在宅サービス	訪問系サービス	訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション
	通所系サービス	通所介護、通所リハビリテーション、短時間通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護、地域密着型通所介護、通所型サービスB（高齢者ふれあいデイサービス）
	短期系サービス	短期入所生活介護
	その他在宅サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護
居住系サービス	居住系（介護保険）サービス	特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護
	居住系（保険外）サービス	軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅
施設サービス		介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院
福祉用具貸与		福祉用具貸与
居宅介護支援		居宅介護支援

※介護予防サービス含む。

2. 人材について

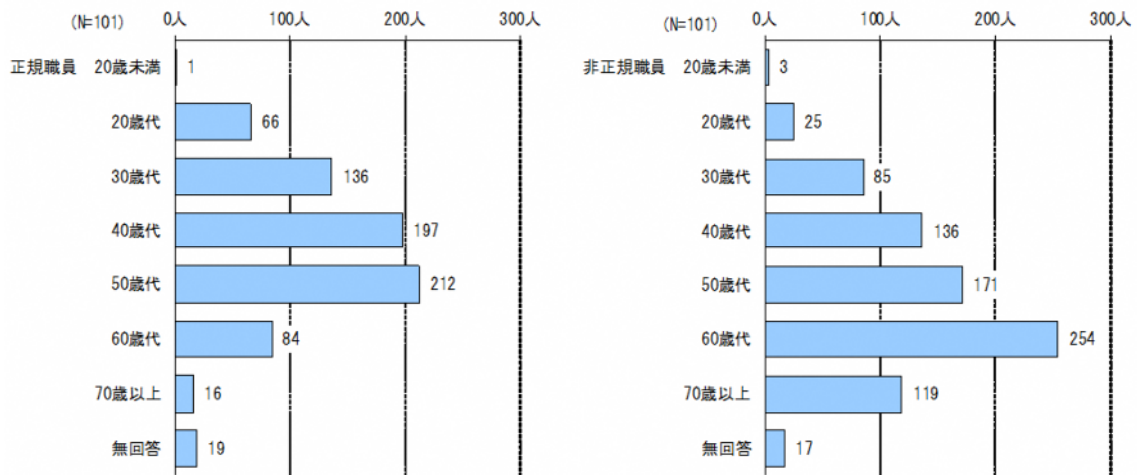
(1) 従業員の状況

- 問1 4月1日現在の従業員数について、ご記入ください。また、不足している人数について、職種別に数字をご記入ください。

単位:人

		従業員総数			
		正規職員		非正規職員	
			うち外国人		うち外国人
全体		731	21	810	10
サービス種別	訪問系サービス	97	0	212	0
	通所系サービス	126	0	260	0
	短期系サービス	5	0	21	0
	その他在宅サービス	22	3	20	-
	居住系(介護保険)サービス	26	0	77	0
	居住系(保険外)サービス	15	0	6	0
	施設サービス	375	18	193	10
	福祉用具貸与	5	0	1	0
	居宅介護支援	60	0	20	0

【従業員の年齢構成】



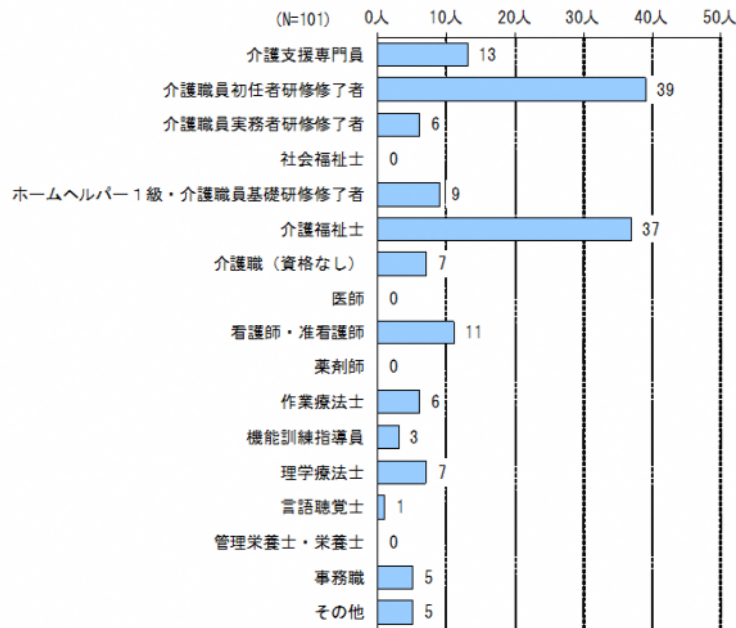
単位:人

		年齢構成・正規職員							
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体		1	66	136	197	212	84	16	19
サービス種別	訪問系サービス	0	4	15	29	32	14	1	-
	通所系サービス	0	4	28	30	28	13	14	-
	短期系サービス	0	1	2	1	1	0	0	-
	その他在宅サービス	0	1	5	11	4	1	0	-
	居住系(介護保険)サービス	0	1	3	6	10	6	0	-
	居住系(保険外)サービス	0	1	2	3	7	2	0	-
	施設サービス	1	54	77	99	107	36	1	-
	福祉用具貸与	0	0	1	2	1	1	0	-
	居宅介護支援	0	0	3	16	22	11	0	-

単位:人

		年齢構成・非正規職員							
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体		3	25	85	136	171	254	119	17
サービス種別	訪問系サービス	0	0	10	24	63	82	32	-
	通所系サービス	0	6	23	62	56	68	43	-
	短期系サービス	0	0	6	3	4	8	0	-
	その他在宅サービス	0	1	5	5	4	3	2	-
	居住系(介護保険)サービス	2	6	8	11	8	27	15	-
	居住系(保険外)サービス	0	0	2	1	1	2	0	-
	施設サービス	1	12	31	27	30	56	25	-
	福祉用具貸与	0	0	0	0	1	0	0	-
	居宅介護支援	0	0	0	3	4	8	2	-

【不足している職員】



単位：人

サービス種別	不足している職員					
	介護支援専門員	介護職員初任者研修修了者	介護職員実務者研修修了者	社会福祉士	ホームヘルパー1級・介護職員基礎研修修了者	介護福祉士
全体	13	39	6	0	9	37
訪問系サービス	0	19	2	0	1	10
通所系サービス	2	16	3	0	6	14
短期系サービス	-	-	-	-	-	2
その他在宅サービス	-	-	-	-	-	2
居住系(介護保険)サービス	0	0	0	0	0	3
居住系(保険外)サービス	-	-	1	-	2	-
施設サービス	0	4	0	0	0	5
福祉用具貸与	0	0	0	0	0	1
居宅介護支援	11	0	0	0	0	0

単位：人

サービス種別	不足している職員					
	介護職（資格なし）	医師	看護師・准看護師	薬剤師	作業療法士	機能訓練指導員
全体	7	0	11	0	6	3
訪問系サービス	2	0	3	0	1	0
通所系サービス	2	0	4	0	4	3
短期系サービス	-	-	-	-	-	-
その他在宅サービス	-	-	-	-	-	-
居住系(介護保険)サービス	0	0	0	0	0	0
居住系(保険外)サービス	-	-	-	-	-	-
施設サービス	3	0	4	0	1	0
福祉用具貸与	0	0	0	0	0	0
居宅介護支援	0	0	0	0	0	0

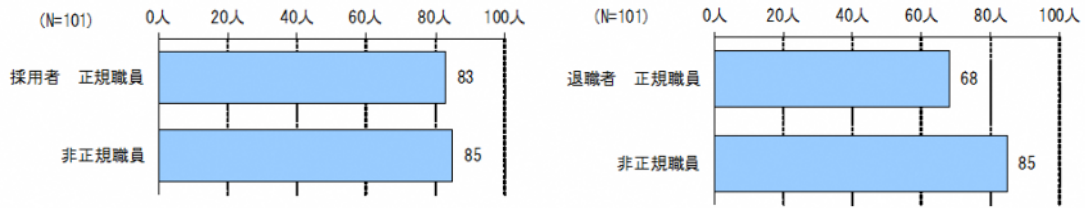
単位：人

サービス種別	不足している職員					
	理学療法士	言語聴覚士	管理栄養士・栄養士	事務職	その他	事業所の不足人数の合計
全体	7	1	0	5	5	152
訪問系サービス	1	0	0	0	0	39
通所系サービス	5	1	0	2	3	68
短期系サービス	-	-	-	-	-	2
その他在宅サービス	-	-	-	-	-	2
居住系(介護保険)サービス	0	0	0	0	0	3
居住系(保険外)サービス	-	-	-	-	-	3
施設サービス	1	0	0	0	0	18
福祉用具貸与	0	0	0	1	1	3
居宅介護支援	0	0	0	2	1	14

※複数の資格を持っている場合や兼任している場合があるため、各職種の合計と従業員総人数は一致しない場合があります。

●問2 令和4年度の採用及び退職者数についてご回答ください。

【採用及び退職者数】



単位:人

		採用者数					
		正規職員		非正規職員		合計	
			うち外国人		うち外国人		うち外国人
全体		83	14	86	7	169	21
サービス種別	訪問系サービス	11	1	18	2	29	3
	通所系サービス	9	0	30	2	39	2
	短期系サービス	0	0	0	0	0	0
	その他在宅サービス	5	1	2	0	7	1
	居住系(介護保険)サービス	3	0	14	0	17	0
	居住系(保険外)サービス	3	0	0	0	3	0
	施設サービス	44	12	18	3	62	15
	福祉用具貸与	0	0	0	0	0	0
	居宅介護支援	8	0	4	0	12	0

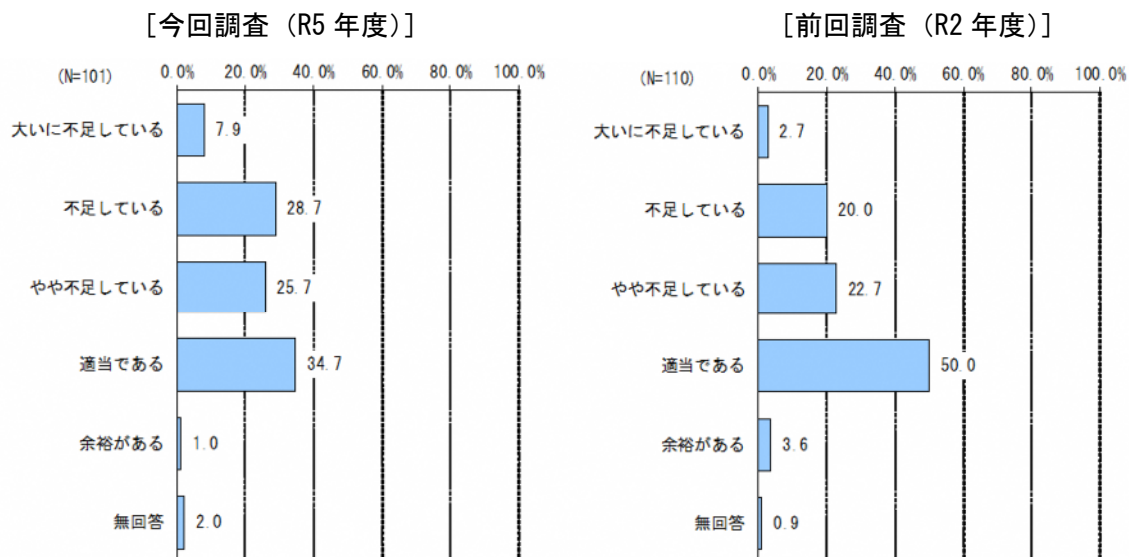
単位:人

		退職者数					
		正規職員		非正規職員		合計	
			うち外国人		うち外国人		うち外国人
全体		68	5	86	14	154	19
サービス種別	訪問系サービス	6	1	15	3	21	4
	通所系サービス	12	1	28	6	40	7
	短期系サービス	0	0	0	2	0	2
	その他在宅サービス	5	0	0	0	5	0
	居住系(介護保険)サービス	1	0	6	0	7	0
	居住系(保険外)サービス	1	0	0	0	1	0
	施設サービス	38	3	32	1	70	4
	福祉用具貸与	0	0	0	0	0	0
	居宅介護支援	5	0	5	2	10	2

●問3 従業員の過不足状況はいかがですか。(○は1つ)

- 従業員の過不足状況について、「適当である」が34.7%で最も多くなっています。「大いに不足している」「不足している」「やや不足している」を合わせた“不足している”は62.3%となっています。
- 前回調査と比べると、「適当である」が15.3ポイント少なく、“不足している”が16.9ポイント多くなっています。

【従業員の過不足状況】

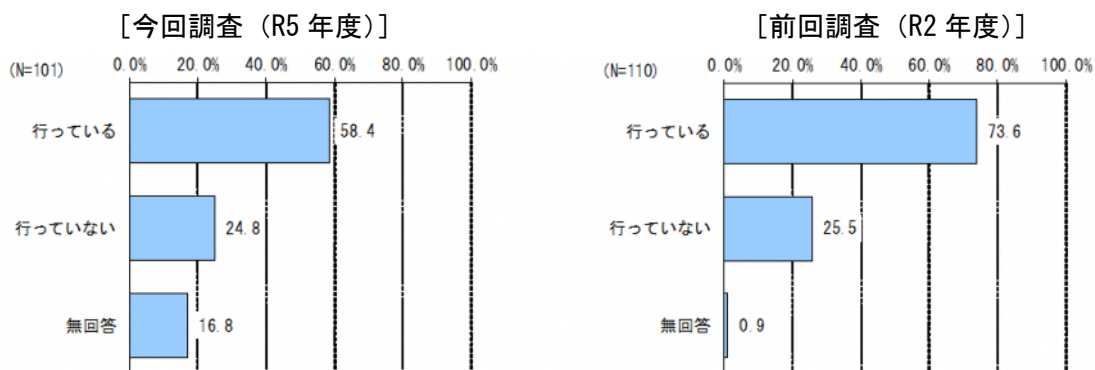


(2) 人材確保・育成

●問4 人材を確保するための取り組みを行っていますか。(○は1つ)

- 人材を確保するための取り組みについて、「行っている」が58.4%、「行っていない」が24.8%となっています。
- 前回調査と比べると、「行っている」が15.2ポイント少なくなっています。

【人材確保のための取り組み】

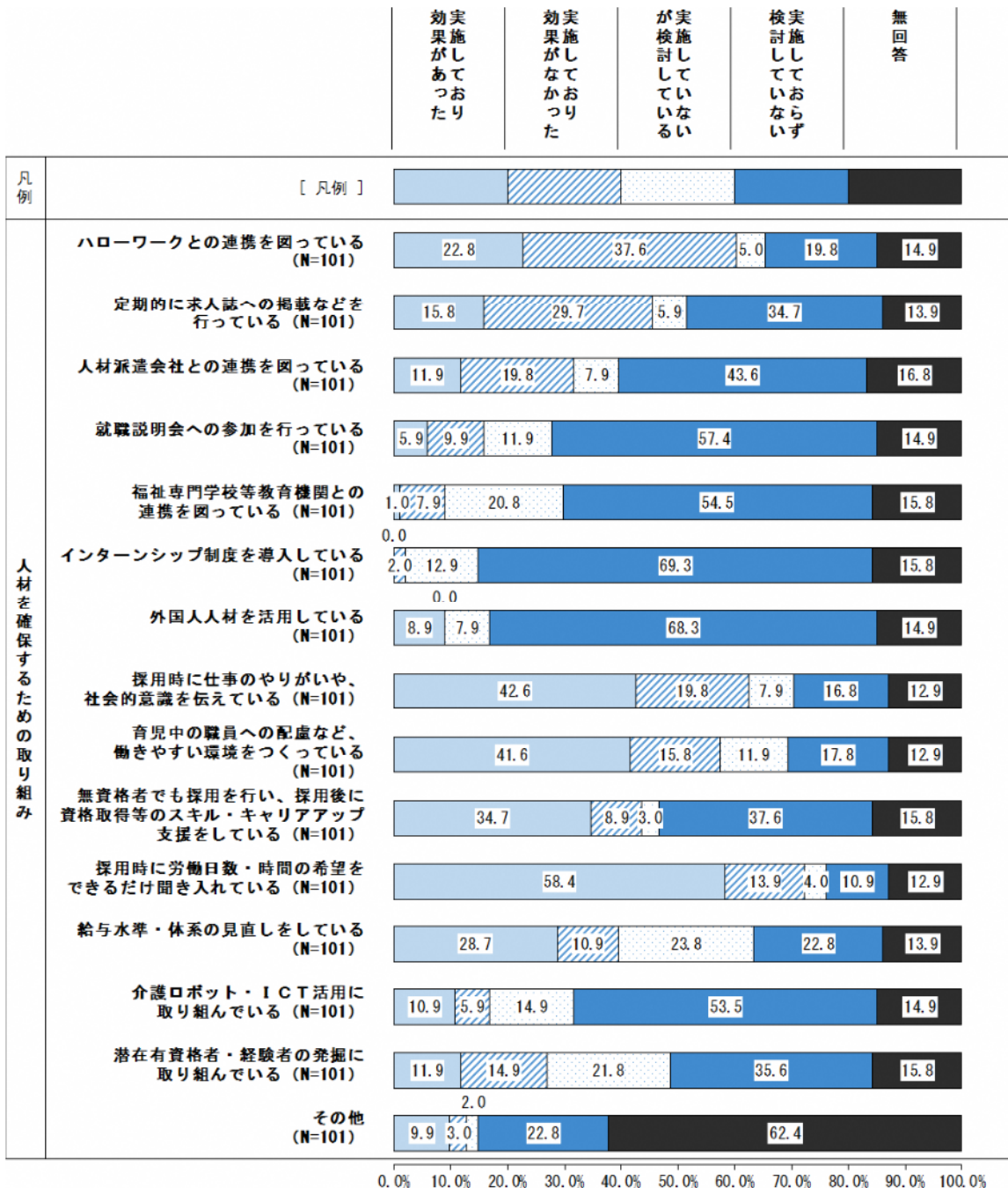


- 問 4-1 人材を確保するための以下のそれぞれ取り組みについて、現在実施しているものについてはその効果を（①～②）、実施していないものについては検討状況を（③～④）ご回答ください。（それぞれの項目について、○は①～④の1つずつ）

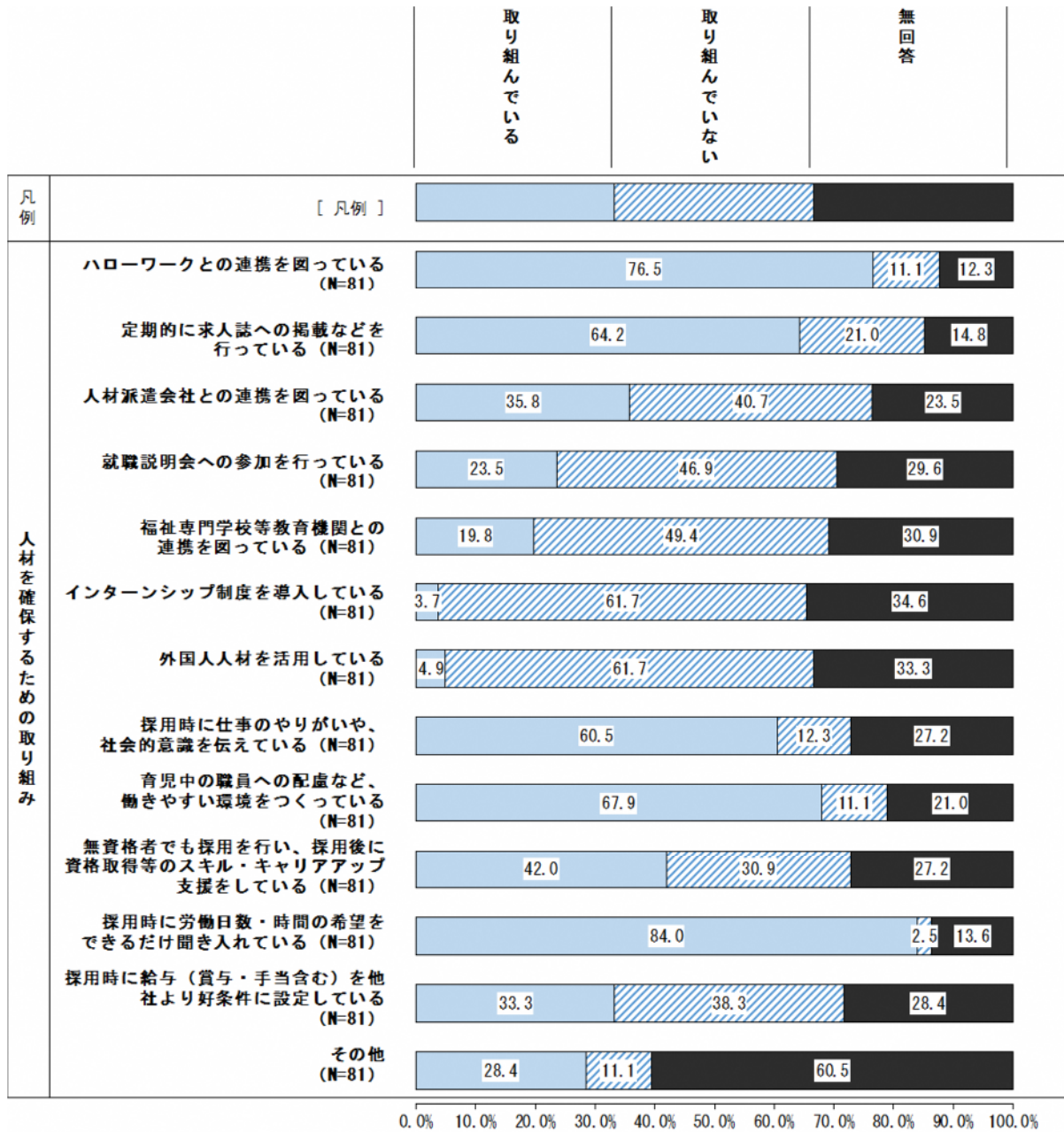
○ 人材を確保するための取り組みについて、「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」事業所が最も多く、効果があったと感じている事業所も最も多くなっています。次いで、「採用時に仕事のやりがいや、社会的意識を伝えている」「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」について効果があった事業所が4割以上となっています。また、「ハローワークとの連携を図っている」事業所は約6割と多いものの効果があったと感じている事業所は約2割となっています。一方で、「インターンシップ制度を導入している」「外国人人材を活用している」事業所は1割未満と少なくなっています。

【人材を確保するための取り組み】

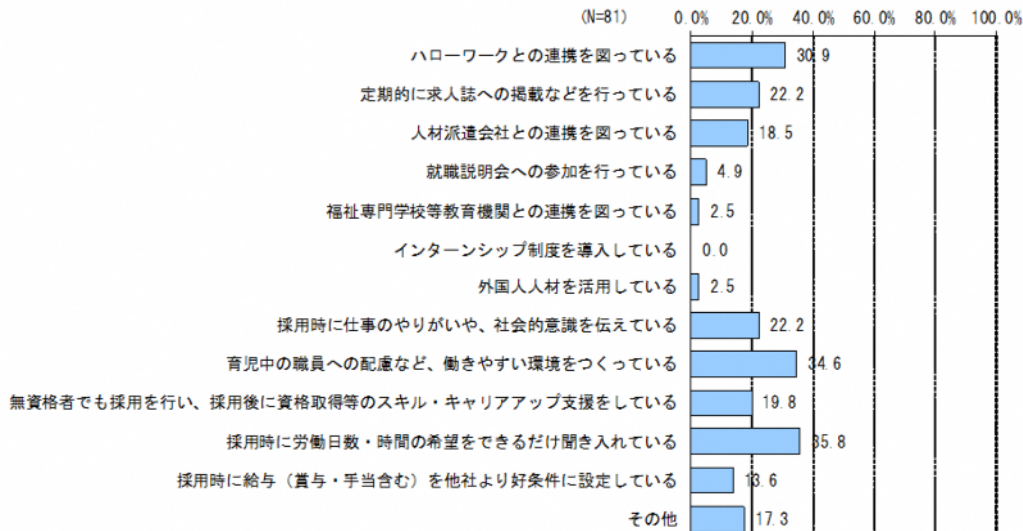
[今回調査 (R5 年度)]



[前回調査 (R2 年度)]



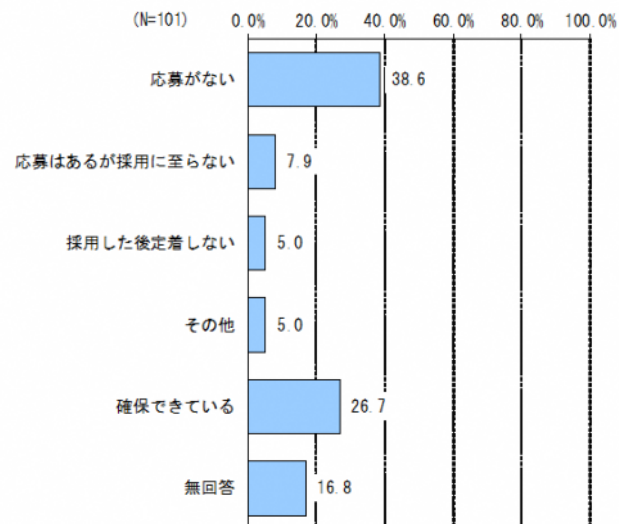
(効果があった取り組み)



●問5 人員が確保できていない場合、その理由は何ですか。(○は1つ)

○ 人材が確保できていない理由について、「応募がない」が38.6%で最も多くなっています。一方で「確保できている」が26.7%となっています。

【人材が確保できていない理由】



●問 6 従事者（サービス提供者）の質の確保・向上を図る上でどのような課題がありますか。

サービス種別	課題
訪問系サービス	入職者への教育研修。職員のキャリアプランの設定と適正な評価制度。
	コロナ禍で研修もままならず、今後実技等の練習、研修を重ねていきたい。外部研修も開催して頂きたい。
	登録ヘルパーの高齢化により、意欲低下、マンネリ化、ホームヘルパーの専門性の周知、対人援助職として意識向上。
	介護サービスの担い手、訪問介護の職員（ヘルパー）の高齢化、訪問介護サービスの1時間の単価が低い、拘束時間が長い。
	高齢化が進んでおり、体力的なものや腰痛の頻度ICT化の理解などに課題を感じている。
	メンタルヘルス。
	介護報酬の改定。
	本来のサ責の業務の時間が取れない。ヘルパー業務（人員不足）もかなりあり、多忙。
	研修の確保をする時間と人の確保。
	運営側に医療従事者がいないため、現場への要求と実績がかみ合わない。
	数年間の現場経験が必要。
	各個人のスキルや現在までの経験に差があり、それを埋めていくこと、又、個人で働くため、利用者様に対する接遇や対応能力、性格などにより与える影響に悩むことがある。
	従事者が高齢化しており、身体介護（入浴や排泄介助）に対応できる者が少ない。
	多忙で、時間内の研修が難しい。
志、スキル、目配り・気配り。	
職員数の絶対的な不足、それに伴う質の低下。	
研修時間の確保。	
通所系サービス	入職者への教育研修。職員のキャリアプランの設定と適正な評価制度。
	定期的な研修や勉強会の実施。
	今現在は、介護福祉士資格を持った優秀なスタッフがそろっているが数年先は不安。絶対数が不足している。
	研修参加の時間確保が難しい。
	研修を受講する時間がなかなか確保できない。
	OJT研修、視聴研修の時間的ゆとりが難しい。
	人材が不足すると日々の業務に追われ、レクリエーションや利用者様との時間が減少、意欲の低下等につながる。
	専門知識の修得の必要性を考えている。専門的な講義より実践の場での教育が必要。コミュニケーション能力が低い人が多く性格も含め大きな問題と感じている。
	教育体制。
	事業の透明化・給料の引き上げ・事業の方針や利益等の見える化・スキルアップ制度・昇給制度・理念の創設と共有。慢性的な人員不足・業務過多で時間が無い。
リーダーの育成や研修時間の確保。	
短期系サービス	入職者への教育研修。職員のキャリアプランの設定と適正な評価制度。
その他在宅サービス	できるだけ若い人材を集め、介護以外の面でも育成したいが、中途入社が多い。
居住系（介護保険）サービス	各種研修の推奨、資格をとりやすい環境作り。
	若年層の確保が必須。
施設サービス	長期雇用につながる為の施策が必要。腰痛対策。
	定期的に社内で介護技術の向上や素質の向上を目指し、研修会は開催しているが、なかなかそれらの知識が現実の仕事としてうまく結びつかず、人間力アップにつながっていない。三田市でも研修等を開催して頂きたい。
	人材不足の為、業務に追われて疲弊しているため。
福祉用具貸与	研修・勉強会等について、就業時間内での実施が困難であり時間外で行うことが多い。
	福祉用具については上限価格が決まっている為、燃料・光熱費等の高騰分を転嫁することができず、そもそも給与体系の見直しや人材の追加等が難しい。
居宅介護支援	教育研修の充実。職員のキャリアプランの設定と適正な評価制度。
	法人の体制、給与。
	教える側に余裕がなく、しっかりと教えることができない。
	コミュニケーションを良く回り、それぞれの状態を把握した上でより仕事への取り組みがスムーズになるようにアドバイスを行い、仕事への取り組みの迷いをなくしていくこと。
	仕事内容と給料が見合っていない。応募自体が少ないので、人材を選ぶことができない。
	業務内容が明確でなく、幅が広い。ケアマネ個々により利用者への対応が異なる。「資質向上」の「資質」をどこまで過大（過小）評価するのか、明確にすることが難しい。
	介護保険サービスのみでは日常生活を送ることが難しくなっている方に対して、支える仕組みやインフォーマルな資源が不足している。また人員も不足する中で日々の業務に追われてしまうこと。
	体系的な研修を組み立て人材育成。
	研修会の内容がマンネリ化しているように感じる。
	質の確保・向上ばかりに目が行き、通常業務が可能な体制や人材確保ができていない。通常業務が可能な体制ができてからの質の確保・向上が通常の順番で、それ以前の業務過多が現状。
	研修に積極的に参加して資質向上を図りたいが、参加すれば実務時間が少なくなり利用者に関わる時間を減らせざるを得ないと感じる。
	離職を防止して長期的な雇用。
処遇や給料面での安定。	

3. 運営状況について

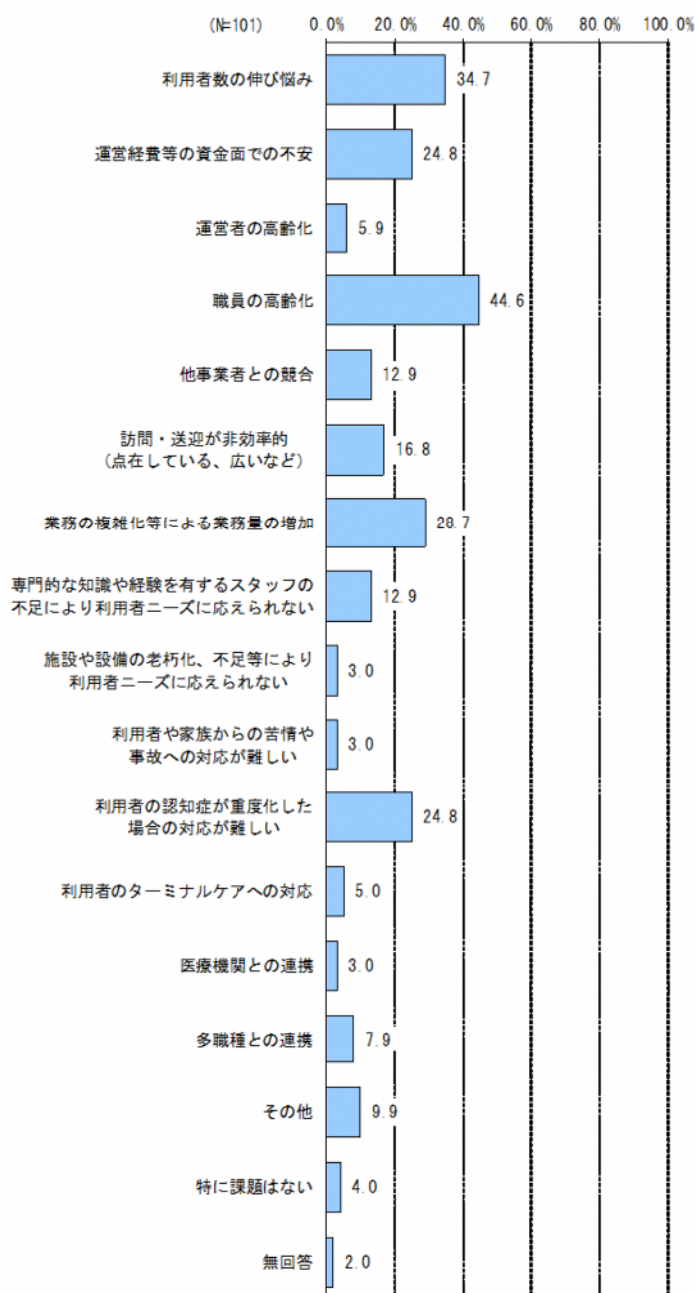
(1) 運営上の課題

●問7 事業運営やサービス提供を行う上での課題は何ですか。(○は3つまで)

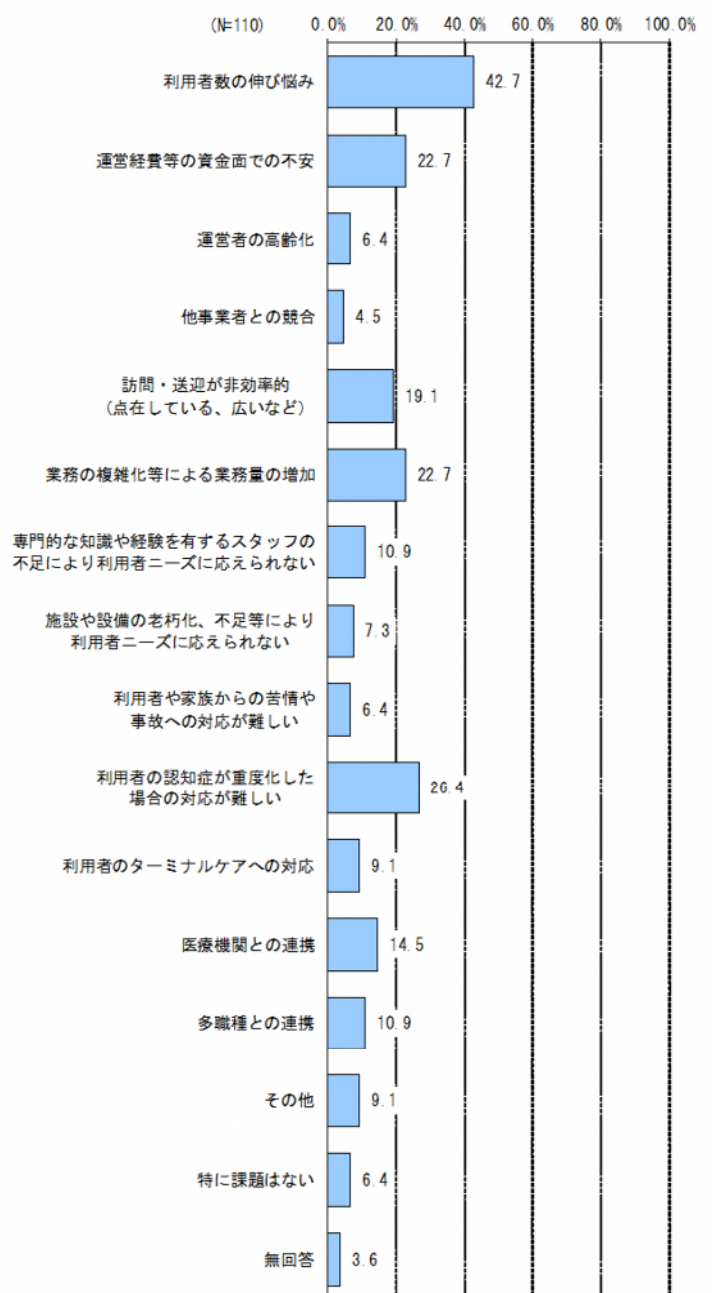
- 事業運営やサービス提供を行う上での課題について、「職員の高齢化」が44.6%で最も多く、次いで「利用者数の伸び悩み」が34.7%、「業務の複雑化等による業務量の増加」が28.7%となっています。
- 前回調査と比べると、「業務の複雑化等による業務量の増加」で6.0ポイント多くなっています。一方で、「医療機関との連携」は11.5ポイント少なくなっています。

【事業運営やサービス提供を行う上での課題 (3LA)】

[今回調査 (R5 年度)]



[前回調査 (R2 年度)]



○ 訪問系サービスでは「職員の高齢化」、通所系サービスでは「利用者数の伸び悩み」、居宅介護支援では「業務の複雑化等による業務量の増加」が多くなっています。

単位：件

	母数 (N)	事業を運営する上での課題は何ですか (3LA)									
		利用者数の伸び悩み	運営経費等の資金面での不安	運営者の高齢化	職員の高齢化	他事業者との競合	訪問・送迎が非効率的(点在している、広いなど)	業務の複雑化等による業務量の増加	専門的な知識や経験を有するスタッフの不足により利用者ニーズに応えられない	施設や設備の老朽化、不足等により利用者ニーズに応えられない	
全体	101	35	25	6	45	13	17	29	13	3	
サービス種別	訪問系サービス	27	10	7	-	15	4	9	5	4	
	通所系サービス	26	13	7	3	8	3	6	6	5	
	短期系サービス	2	1	1	-	1	1	-	-	-	
	その他在宅サービス	3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	居住系(介護保険)サービス	4	1	-	-	3	1	-	-	1	
	居住系(保険外)サービス	2	1	1	-	2	-	-	-	-	
	施設サービス	8	5	5	-	4	2	-	-	1	
	福祉用具貸与	2	2	-	1	-	1	-	1	-	
	居宅介護支援	27	2	4	2	12	1	2	17	2	

単位：件

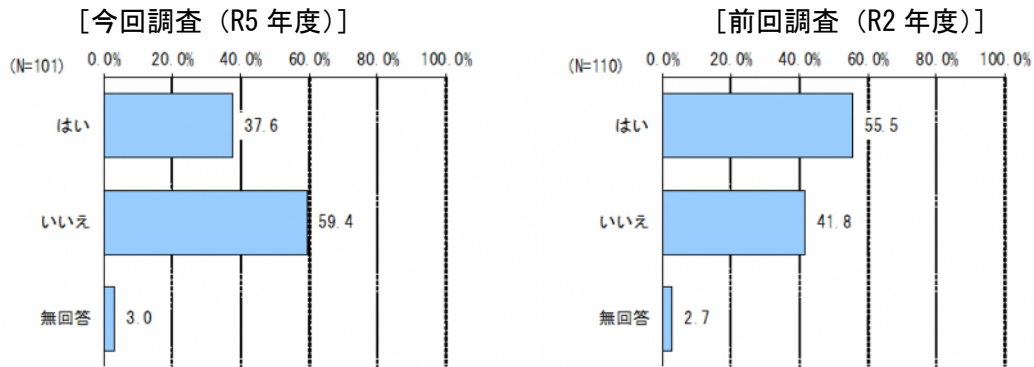
	母数 (N)	事業を運営する上での課題は何ですか (3LA)							
		利用者や家族からの苦情や事故への対応が難しい	利用者の認知症が重度化した場合の対応が難しい	利用者のターミナルケアへの対応	医療機関との連携	多職種との連携	その他	特に課題はない	無回答
全体	101	3	25	5	3	8	10	4	2
サービス種別	訪問系サービス	27	1	4	1	-	3	2	2
	通所系サービス	26	-	7	2	-	2	-	-
	短期系サービス	2	-	1	-	-	-	1	-
	その他在宅サービス	3	-	1	-	-	-	1	1
	居住系(介護保険)サービス	4	-	2	-	-	-	1	-
	居住系(保険外)サービス	2	-	-	1	-	-	-	-
	施設サービス	8	-	1	-	2	1	-	-
	福祉用具貸与	2	-	-	-	-	-	-	-
	居宅介護支援	27	2	9	1	1	2	4	1

(2) 地域包括支援センター（・高齢者支援センター）への相談

- 問 8 地域包括支援センター（・高齢者支援センター）へ、相談をしたことがありますか。
（○は1つ）

- 地域包括支援センター（・高齢者支援センター）への相談経験について、「はい」が37.6%、「いいえ」が59.4%となっています。
○ 前回調査と比べると、「はい」が17.9ポイント少なくなっています。

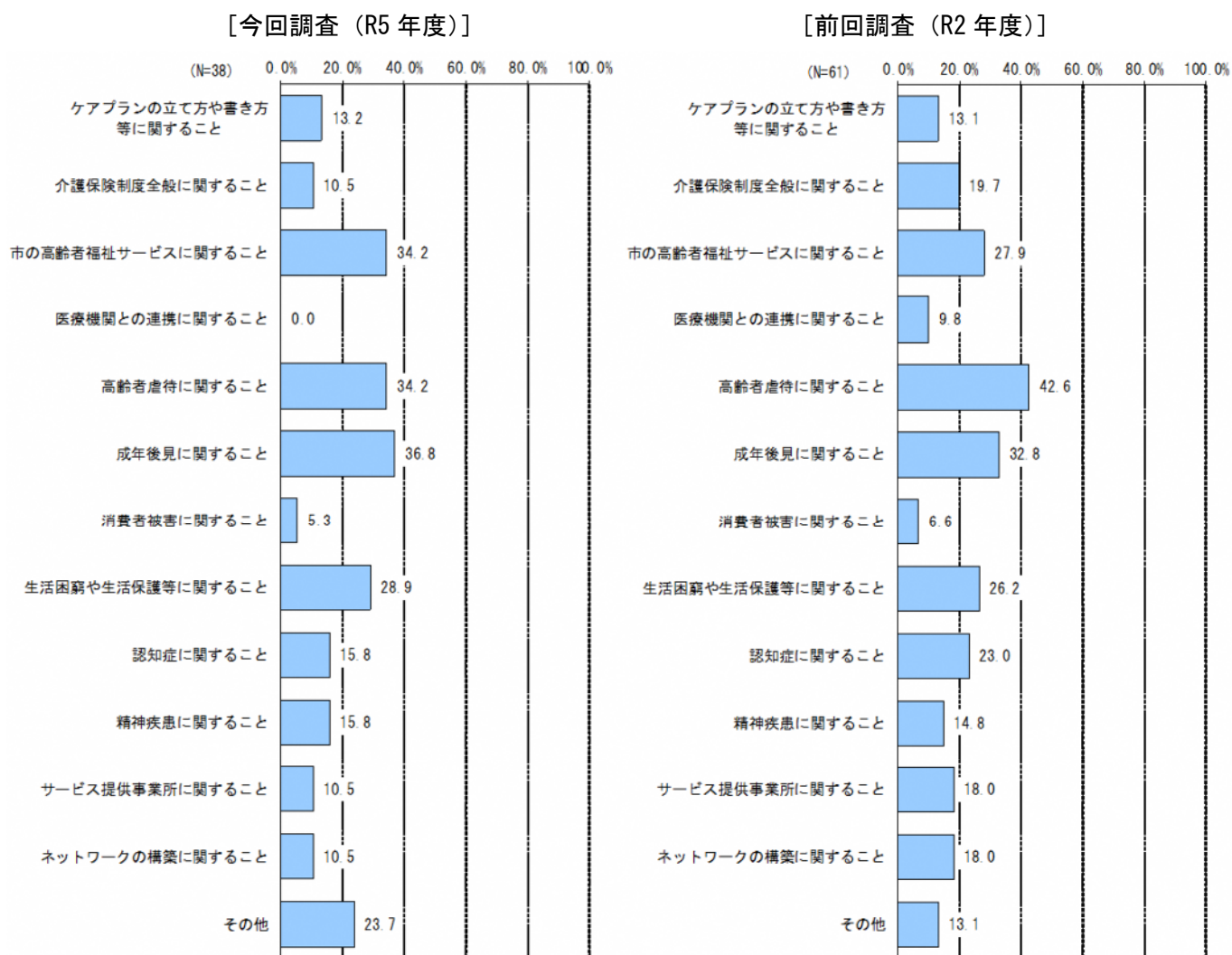
【地域包括支援センター（・高齢者支援センター）への相談経験】



●問 8-1 [相談したことがある方のみ] 相談した分野は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

- 相談した分野について、「成年後見に関すること」が36.8%で最も多く、次いで「高齢者虐待に関すること」「市の高齢者福祉サービスに関すること」が34.2%、「生活困窮や生活保護等に関すること」が28.9%となっています。
- 前回調査と比べると、「市の高齢者福祉サービスに関すること」で6.3ポイント多くなっています。一方で、「介護保険制度全般に関すること」「医療機関との連携に関すること」「高齢者虐待に関すること」「認知症に関すること」「サービス提供事業所に関すること」「ネットワークの構築に関すること」で5ポイント以上少なくなっています。

【相談した分野 (MA)】

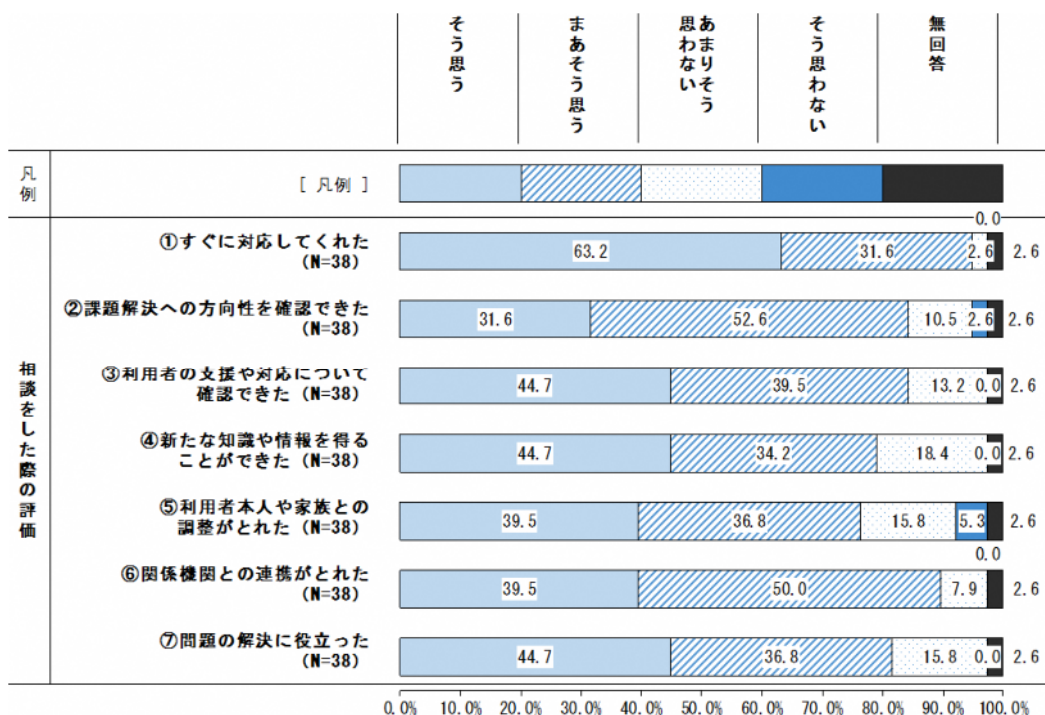


●問 8-2 「相談したことがある方のみ」地域包括支援センター（・高齢者支援センター）への相談をした際の全体的な評価は、次のうちどれですか。（それぞれに○は1つ）

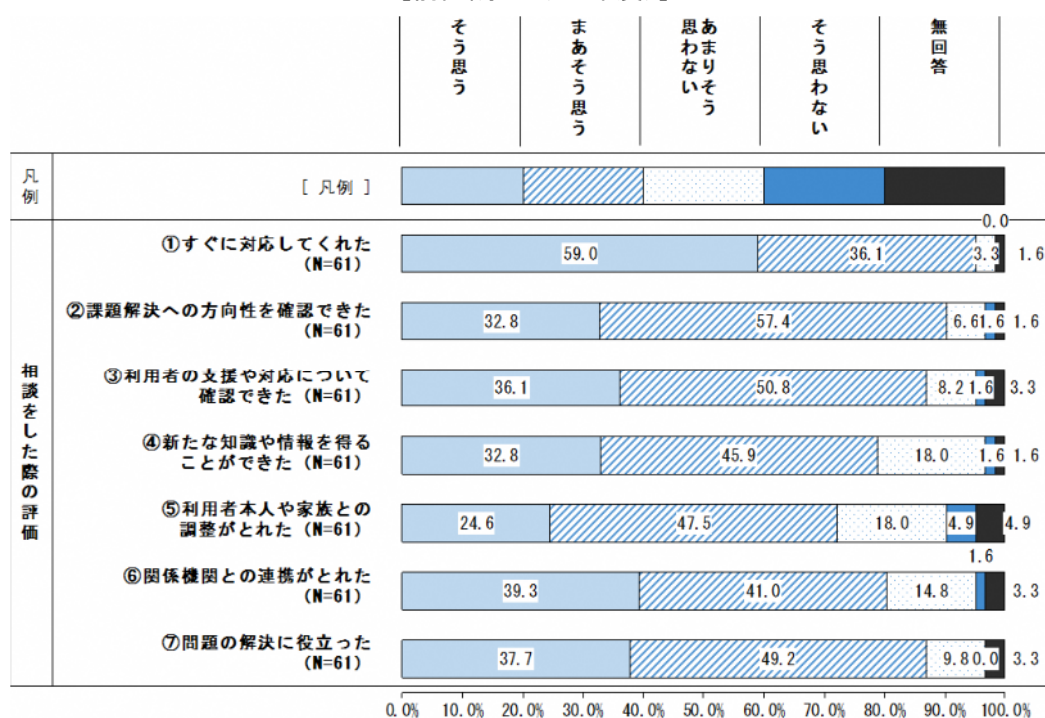
- ほとんどの評価項目で、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた“そう思う”が8～9割と なっています。特に、「すぐに対応してくれた」と思う事業所が63.2%と多くなっています。
- 一方で、「新たな知識や情報を得ることができた」「利用者本人や家族との調整がとれた」に ついては、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた“そう思わない”が約2割と 他の項目と比べて多くなっています。

【相談をした際の評価】

[今回調査 (R5 年度)]



[前回調査 (R2 年度)]



(3) サービスの質の向上

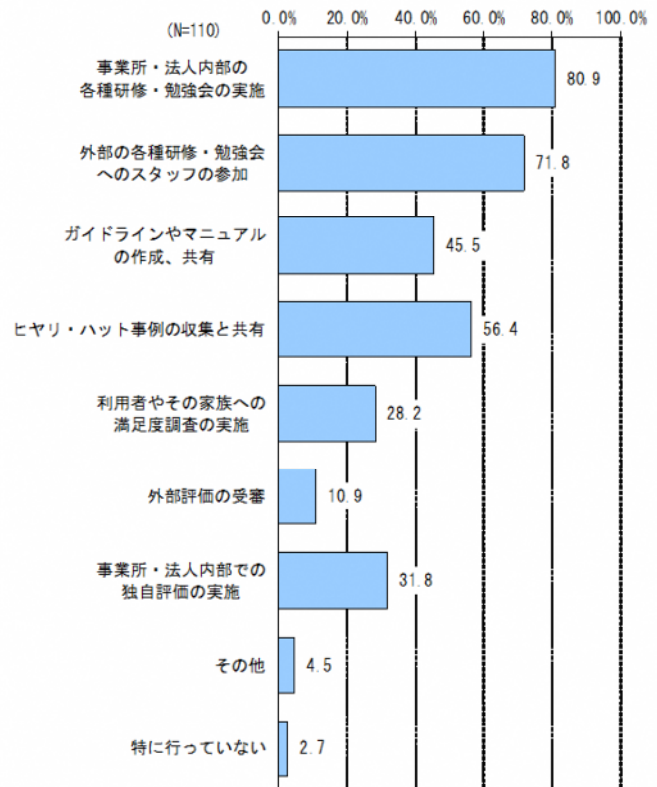
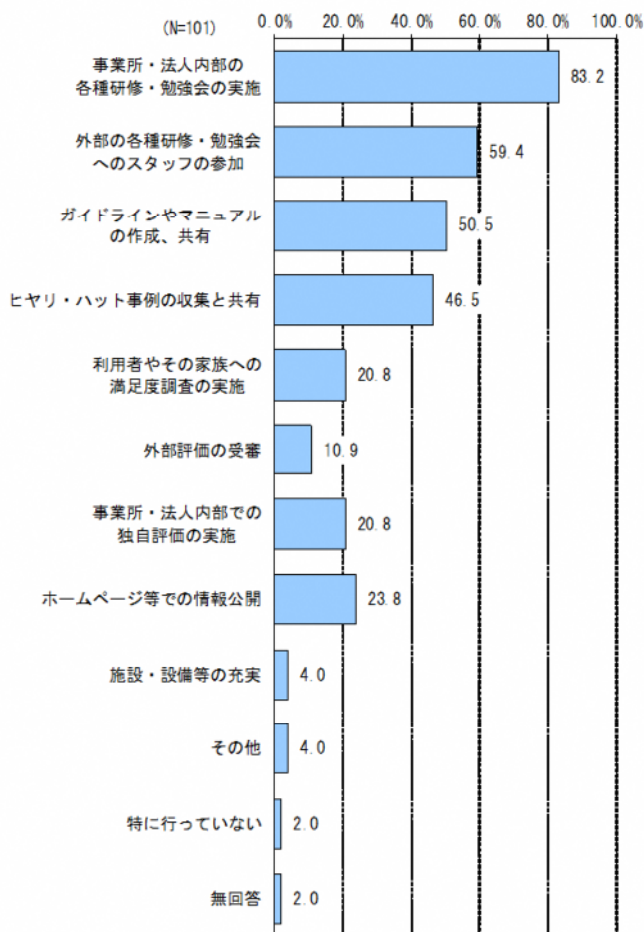
- 問9 サービスの質を向上させるために、どのような取り組みをされていますか。(〇はいくつでも)

- サービスの質向上のための取り組みについて、「事業所・法人内部の各種研修・勉強会の実施」が83.2%で最も多く、次いで「外部の各種研修・勉強会へのスタッフの参加」が59.4%、「ガイドラインやマニュアルの作成、共有」が50.5%となっています。
- 前回調査と比べると、「ガイドラインやマニュアルの作成、共有」で5.0ポイント多くなっています。一方で、「外部の各種研修・勉強会へのスタッフの参加」「ヒヤリ・ハット事例の収集と共有」「利用者やその家族への満足度調査の実施」「事業所・法人内部での独自評価の実施」で約10ポイント少なくなっています。

【サービスの質向上のための取り組み (MA)】

[今回調査 (R5 年度)]

[前回調査 (R2 年度)]



(4) 市への要望

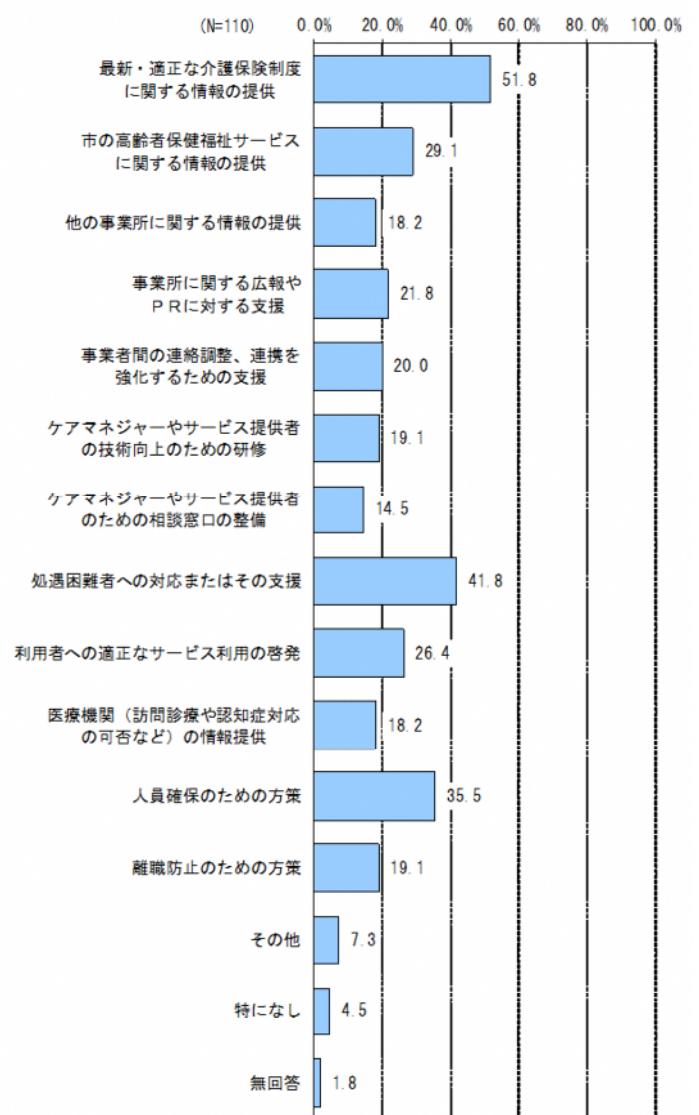
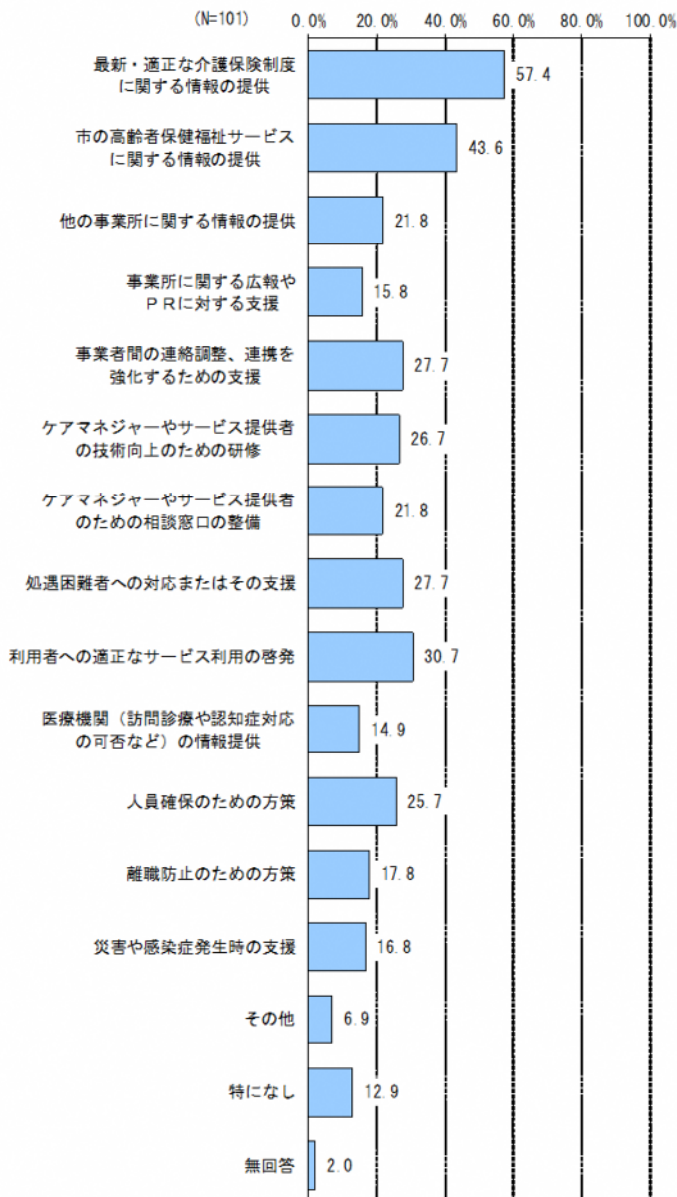
●問 10 事業を行ううえで、三田市に対する要望はありますか。(〇はいくつでも)

- 市に対する要望について、「最新・適正な介護保険制度に関する情報の提供」が57.4%で最も多く、次いで「市の高齢者保健福祉サービスに関する情報の提供」が43.6%、「利用者への適正なサービス利用の啓発」が30.7%となっています。
- 前回調査と比べると、「市の高齢者保健福祉サービスに関する情報の提供」で14.5ポイント多くなっています。また、「処理困難者への対応またはその支援」「人員確保のための方策」で約10ポイント少なくなっています。

【市に対する要望 (MA)】

[今回調査 (R5 年度)]

[前回調査 (R2 年度)]



4. 提供しているサービス、今後の提供意向について

(1) 今後のサービス提供意向

- 問 11 今後、三田市において、新規に展開したい（新規に事業実施に取り組みたい）と考えている介護サービスはありますか。（○はいくつでも）

○ 今後、新規に展開したいと考えている介護サービスについて、「訪問リハビリテーション」が4件、「訪問介護」「夜間対応型訪問介護」が3件、「通所介護」「居宅介護支援」「サービス付き高齢者向け住宅」が2件となっています。

【介護保険サービスの新規展開意向（MA）】

単位：件

訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護・短期入所療養介護	福祉用具貸与・購入	住宅改修	特定施設入居者生活介護	居宅介護支援
3	1	0	4	0	2	1	0	1	1	0	2
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	夜間対応型訪問介護	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型共同生活介護	地域密着型特定施設入居者生活介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	看護小規模多機能型居宅介護	地域密着型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護医療院
0	3	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
介護予防訪問介護相当サービス（現行相当）	訪問型サービスA（基準緩和型）	訪問型サービスB（生活支援型）	訪問型サービスC（短期集中型）	介護予防通所介護相当サービス（現行相当）	通所型サービスA（基準緩和型）	通所型サービスB（生活支援型）	通所型サービスC（短期集中型）	介護付き有料老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	特になし	無回答
0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	66	21

●問 11-1 〔新規に展開したいサービスがある方のみ〕 そのサービスを新規に展開したい理由は何ですか。

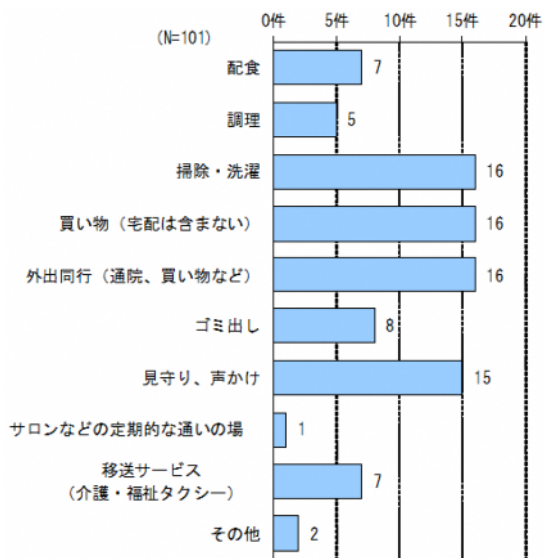
新規展開したいサービス	現在のサービス種別	理由
訪問介護	居宅介護支援	足りていないから。
	通所系サービス	当地域は住宅開発され30年を経過し、高齢者家族、単身者等、身寄りが近くにいないため。地域での見守りや介護支援がますます必要になってくることから、安心して住み続けられる地域づくりが大きな課題になっているため。介護はお金はかかるが金だけでは解決できず、人の手と心が重要と考えている。
	通所系サービス	必要と思われるから。
訪問入浴介護	居宅介護支援	事業所がひとつしかなく、利用者の希望にあったサービス提供が困難。
訪問リハビリテーション	居宅介護支援	利用者からのリハビリ要望が増えている(特に団塊の世代男性)。リハビリに特化した施設が増えている。
	短期系サービス	リハビリの要望が増えている。リハビリに特化した施設が増えてきている。
	通所系サービス	利用者、家族様から在宅リハビリの要望、ニーズを感じる。リハビリに特化した施設が増えてきている。
通所介護	訪問系サービス	リハビリの要望が増えている。リハビリに特化した施設が増えている。
	通所系サービス	収益の確保のため。
通所リハビリテーション	通所系サービス	当地域は住宅開発され30年を経過し、高齢者家族、単身者等、身寄りが近くにいないため。地域での見守りや介護支援がますます必要になってくることから、安心して住み続けられる地域づくりが大きな課題になっているため。介護はお金はかかるが金だけでは解決できず、人の手と心が重要と考えている。
	通所系サービス	デイサービスを提供している中で、リハビリの強化の必要性、認知症の利用者様へのさらなる適切な対応の必要性があるため。
福祉用具貸与・購入	通所系サービス	当地域は住宅開発され30年を経過し、高齢者家族、単身者等、身寄りが近くにいないため。地域での見守りや介護支援がますます必要になってくることから、安心して住み続けられる地域づくりが大きな課題になっているため。介護はお金はかかるが金だけでは解決できず、人の手と心が重要と考えている。
住宅改修	通所系サービス	当地域は住宅開発され30年を経過し、高齢者家族、単身者等、身寄りが近くにいないため。地域での見守りや介護支援がますます必要になってくることから、安心して住み続けられる地域づくりが大きな課題になっているため。介護はお金はかかるが金だけでは解決できず、人の手と心が重要と考えている。
居宅介護支援	通所系サービス	今後、高齢者の人口割合が高くなることが予想されるため。
	通所系サービス	当地域は住宅開発され30年を経過し、高齢者家族、単身者等、身寄りが近くにいないため。地域での見守りや介護支援がますます必要になってくることから、安心して住み続けられる地域づくりが大きな課題になっているため。介護はお金はかかるが金だけでは解決できず、人の手と心が重要と考えている。
夜間対応型訪問介護	その他在宅サービス	夜間だけ利用したいと言われる利用者がいるから。
	居住系(介護保険)サービス	夜間の訪問希望者がいる。
	通所系サービス	夜間だけ利用したい人がいる。
認知症対応型通所介護	通所系サービス	デイサービスを提供している中で、リハビリの強化の必要性、認知症の利用者様へのさらなる適切な対応の必要性があるため。
認知症対応型共同生活介護	通所系サービス	収益の確保のため。
地域密着型通所介護	通所系サービス	今後、高齢者の人口割合が高くなることが予想されるため。
訪問型サービスB(生活支援型)	通所系サービス	当地域は住宅開発され30年を経過し、高齢者家族、単身者等、身寄りが近くにいないため。地域での見守りや介護支援がますます必要になってくることから、安心して住み続けられる地域づくりが大きな課題になっているため。介護はお金はかかるが金だけでは解決できず、人の手と心が重要と考えている。
介護付き有料老人ホーム	通所系サービス	今後、高齢者の人口割合が高くなることが予想されるため。
サービス付き高齢者向け住宅	居宅介護支援	足りていないから。
	通所系サービス	今後、高齢者の人口割合が高くなることが予想されるため。

- 問 12 介護保険外のサービスで現在取り組んでいるサービスはありますか。また、今後新規に展開したい（新規に事業実施に取り組みたい）と考えているサービスはありますか。
 (○はいくつでも)

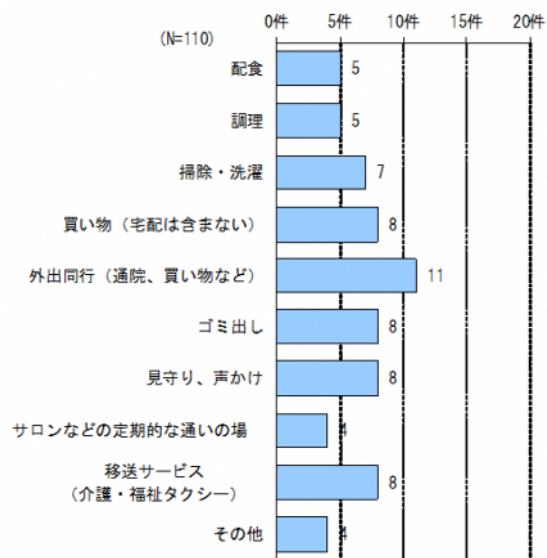
- 取り組んでいる保険外サービスについて、「掃除・洗濯」「買い物（宅配は含まない）」「外出同行（通院、買い物など）」が16件で最も多く、次いで「見守り、声かけ」が15件となっています。前回調査と比べると、「配食」「掃除・洗濯」「買い物（宅配は含まない）」「外出同行（通院、買い物など）」「見守り、声かけ」に取り組む事業所が増加しています。
- ほとんどのサービスで新規展開の意向がある事業所があります。「サロンなどの定期的な通いの場」については、取り組んでいる事業所は現在1件ですが、3件の新規展開意向があります。

【取り組んでいるサービス (MA)】

[今回調査 (R5 年度)]

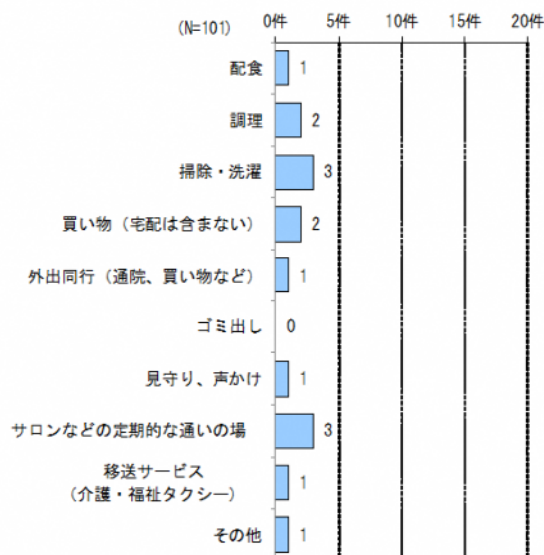


[前回調査 (R2 年度)]



【新規展開したいサービス (MA)】

[今回調査 (R5 年度)]



[前回調査 (R2 年度)]

